

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271600607		
法人名	有限会社 三幸		
事業所名	グループホームさくらんぼ さくら		
所在地	出雲市斐川町今在家403-1		
自己評価作成日	令和2年2月12日	評価結果市町村受理日	令和2年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和2年3月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者お一人お一人が安心して気持ちのもと、日々活き活きと生活していただけるよう、家事への参加、屋外散歩、外食や外出など、職員と一緒に関わりあうことで生活を共にしている感覚をお互いもちながら日々支援させていただいている。また利用者お一人お一人に対する尊厳も大切に思い支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

川の土手を背に広々とした平野を見渡せる恵まれた環境の中に建っており、施設の中も広く明るく開放感がある。2つのユニットの間は中庭で繋がりが行き来が可能で、気候の良い時期には外気浴やお茶を楽しめるようになっている。開所から14年が経過。管理者の他数名は開所当時からで、ほかにベテランの職員も多いが、経験の浅い職員の出入りが続いた様子。その中でも研修を重ね看取りに取り組んでおり、協力医や訪看との連携も良好で、今後に於いても続けていく意向を持っている。今年度は以前デイサービスをしていた場所を利用して地域の方対象の認知症の勉強会を実施し好評を得ている。入居者も重度の方が退所になるなど入れ替わり、平均介護度も軽くなってきており、調理に積極的に関わる方、ウォーキングを日課にする方など、行動的な方が多い。これからも、残存能力を生かして体を動かすなど個別支援の充実に努めていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に玄関に理念は掲示している。現在共有する機会はないが、管理者、職員共に理念である安心、尊重、和を大事にし支援していると感じている	理念について特別に時間をとり話をするような形はとっていないが、新人職員の場合は教育係を付け実践の中から学び、考え方を伝えるようにしている。以前は唱和していたが、今は掲示物を見ることで感じられるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的に近隣への散歩、近隣の神社参拝、土手などへの散歩等を通し地域の一人として行動させていただき、行き交う人には挨拶している。その際お花や野菜をいただいたりなどしている	コミセンでの喫茶に参加したり、近くのホールで行われる地区の敬老会も楽しみに参加している。民生委員の方々の掃除ボランティアを受けたり、地区の福祉部員の方とは一緒に運動会を楽しむなど交流している。認知症の勉強会も好評だった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成30年10月初めて地域向け認知症勉強会を開催、18名の参加があり、後日とてもよかったと感想をいただくことができた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回サービスの実際や問題提起など表示広く意見をいただき、それらを参考にしサービスに活かさせていただいている	生活保護の方が多く家族関係者の参加が得にくい、会議の意義を伝えることで参加を促している。地区からは入所で付き合いの深い民生委員や、行政からも職員の参加を受け定期に開催。状況報告後、地域の情報を得たり意見交換に繋がっている。	家族、地域住民、有識者など関係者の参加を促し会議が開催できるよう検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場以外ではそのような機会はない	運営推進会議には包括か担当課からの参加があり助言を得ている。包括からは空き情報の問い合わせから入所に繋がったケースがある。生活保護の方が多く担当課から訪問受けたり、情報交換は密に行うようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束といえるケアはしていない。また職員もそれについては認識したうえでケアにあたっている	玄関の施錠は行わず、1日に5、6回外に出る方の場合も少し離れた場所から見守る形。ウォーキングが日課の方には1日40分同行するなど、行動制限しないようにしている。身体拘束防止委員会を3か月に1回開催し、苑内研修も年2回行い意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内研修などを通して学んでいる。これまで虐待の実態は全くない、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	先について近年は学ぶ機会はなかったといえる。また近年それらに該当する事例はなかった。来年度から学ぶ機会を設けていきたいと考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	先については一人ひとり説明、理解を得たうえでやってきたといえる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の面会時に近況報告、課題など提起しご意見を発していただけるようにしている。ほかには運営推進会議で極力意見を発していただけるように伝えてきた	2か月に1回写真入りで行事等の日頃の様子や、往診の状況を伝える便りを送っている。変化があった場合にはラインや電話など連絡の付きやすい形で伝え、意見を得るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年二回の個別の聞き取り時や会議の場などで傾聴するようにしている	年2回賞与を渡す際に個人面談の時間を持ち意見を聞いている。忘年会や食事会を職場負担で開催し職員間の交流の場を深めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特に賞与で個々の評価を反映、労働時間も時間外はほとんどなく定時に終了している。平均年齢が上昇してきており向上心をもって働くことについて環境、条件など課題があると思える		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足がまず大きな問題であり、研修の機会は十分に確保できているとはいえない。しかし来年度からは研修の充実を図り各職員のモチベーションアップにつなげていきたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みをしているとは言えない。過去にはしてきた経緯があるので今後は再開していきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に入所までの情報入手、把握したうえでケア開始しつつ、生活が始まってから起こる本人の不安、困りごとには特に敏感に察知しお聴きし安心して困りごとのないよう生活していただけるように努めた		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に行い、ご家族には都度電話や面会時に報告、また問題に対し提起し一緒に考えていただくなどしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時まずの支援には着目しケアしてきた。ほかのサービスで生かせるものがあれば取り入れたいとは思いつつながら検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常のいろいろな家事を共にすることで暮らしを共にする者同士の関係を築いていると思う		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2カ月に一度ご家族へ書面にて状況報告。それ以外に特変時の報告、どうしたらよいか困ったときの相談などご家族に都度連絡させていただき共に考えてもらうことで支えあう関係性を築いてきたといえる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話所持者にはかかってきた際の取りつなぎ支援。なじみの理髪店への通いの促しをおこない、そこへ継続されている方もいらっしゃる。ご家族への連絡を希望されれば苑の電話から取りつなぎ支援もしている	近くのコミセンのサロンに参加。地元出身の方は声をかけてもらうなど馴染みの方と過ごす時間となっている。理容室がある為馴染みの理髪店から来てもらい髪を切ってもらう方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考えテーブル席を考慮している。利用者同士うまく会話がつかないことも多いため、職員が間に入り利用者同士のコミュニケーションが図れるように配慮している。孤立しないようにも配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中や退所後も居住されている先へ訪問し本人さんとはコミュニケーションを図っている。またその職員さん方とも訪問時にはコミュニケーションをとっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その場その時に本人の希望、意思を把握し尊重したケアに努めているといえる。困難な場合には本人の立場に立ち検討、決定している	大勢の中では自分からなかなか思いを言わない方が多いが、外に出かけたいという思いは強い。お風呂など職員と1対1の時間を大切にし、できるだけ話をするようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報入手、また入所されてからでも本人、ご家族から必要な情報を入手し、それを活かせることで本人の生活の質が良くなるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の流れはサービス提供記録にて把握。具体的内容は別の支援記録、医療記録にて心身の状態の把握をしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人一人それぞれの見方でケアの必要性、改善点について話し合い利用者様の声、心身状態のQOL維持につながる支援ができるよう心がけている	モニタリングは3か月に1回まとめて記録している。生活保護の方の場合、家族と疎遠の方も多いため担当者会議への家族関係者の参加が少ないのが現状。担当を含めた職員を中心に計画を作成している。	できるだけ多くの家族等の関係者で担当者会議が開催できるよう検討いただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日関わった職員全てが気づいたこと、利用者様の声、心身状態の変化などについて記録に残し情報共有しながらケアを行っている。それらをもとに介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時代の変化によるニーズの多様化を感じる日々だがその時々々の使用者様、それぞれに必要な支援が行えるよう心がけてはいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区のコミュニケーションのイベントへの参加やボランティアさんに来苑いただいている行事開催など楽しみの一つとなっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の定期往診に加え、体調不良時の臨時往診、および眼科などの専門医の受診、往診を受けていただいている	今までの主治医の場合は家族対応で継続でき、定期の往診が受けられる協力医に変わることも可能で入所時に判断してもらっている。全員が協力医に変わることを希望。休日、夜間等緊急時の対応も可能で安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	基本的には月に一度の定期往診に利用者様お一人お一人の健康状態について報告、相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に見舞い、状態の把握、ご家族、病院のナース、相談員などと調整を図りつつ早期に退院できるように努めてきた		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の体調に気を配り重度化した場合は、ご家族様と話し合いを行い、どのように終末期を迎え穏やかに過ごしていただけるのか職員が情報、方針について共有しケアに努めている	今までも5件の看取りを実施。現在も対象者がいるが落ち着いている。協力医の指示の元医療保険で訪看を利用して関わることとなっている。看取りに対して不安を訴える職員もあったが、看護師長に話を聞くなど、研修を行ったことで職員の意識統一も図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回消防署員を講師に救急法を学んでいる。また夜勤業務については救急法を学んでから携わるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については年二回実施している。地震、水害については避難マニュアルはあるが訓練はしたことがない。来年度より実施予定である	火災時の避難訓練は日中と夜間想定で実施している。近くの民家は少なく距離もある為、有事の際の協力は受けにくい。施設のオーナーや近くの職員も多い為関係者での対応を検討することとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しつつ、プライバシーを損ねないように対応はしているといえる。ただ言葉使いは親近感がわくあまり丁寧な言葉でなく、友達言葉になる時がある	多くはないが、気心が知れると馴れ合いに感じることや威圧感のある声かけが気になる場面がある。お世話してあげているというような、心の目線が上にならないよう、会議の場で話すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	肝心なことについては極力本人の思いを聞きつつ決定している。また希望が表せるような対応に心がけている。しかし日常の些細なことについては職員本位に決定していることもあり十分とは言えない		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の日課を各自お持ちであるが、日により体調、気分も違うのでその場その時の思い、希望に沿い無理強いしない本人のペースを大切に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着たい洋服が決める方についてはそのように、そうでない方については提案しながら服選びはしている。ほか整髪、髭剃りなど日々できる限り自立に向け整容に努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の感想をお聞きし、それを記録に残し、次のメニューに活かしている。利用者と職員との共同作業にて準備、片付けを行っている	野菜を切ったり食後のお膳拭きや茶碗拭きなど積極的にしたいと言う方が多く、職員と一緒に毎食されている。日課としてメニューを書く人や食事前に発表する人があり、皆で食べることを楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分量を把握し、少ない方については確保できるよう工夫、嗜好品などの提供に努め継続し安定した状態で生活していただけるように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のできない部分のみは介助し、確実な口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	左記の方針でこれまで支援を行ってきた。これからは継続し行っていく考えである	個々の排泄パターンを把握し必要な支援を行っている。多くの方が紙パンツにパットを併用しているが、尿量に合わせて使い分けたりして無駄に使わない意識を持つようになっている。家族負担軽減の為、一括注文し仕分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々各自の排便チェックをしており、便秘な方については散歩を強化したり、飲み物の内容を工夫したりなどしている。また日々の水分摂取量には常々気遣っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の状態や気分に合わせて、入浴時間帯を決めている。また陰部が日常汚染しやすい方については下半身のみ洗浄するなど個々に沿った支援に努めている	1日4、5人ずつ午前、午後どちらでも入れるようになっており、週に2、3回のペースを維持している。家庭浴槽の為重度になるとシャワー浴。看取りになると訪看で清拭対応となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜不眠であったり、また日によっては大儀であったりなど一人ひとりの状態に応じて無理強いをせず、かといって昼夜逆転にはならないように、本人が安心して気持ちよく過ごせるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬説明書をファイリングしておりいつでも確認できるようにしている。服薬支援は飲み込まれるまでは見守っている。屯用での処方薬については特に症状の変化に努めつつ支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	十分とは言えないが、左記の思いで支援している。日常の役割を皆さんお持ちでそれぞれに活動されながら過ごされていると思う		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一回の外出は継続して行っている。また日常的には春から秋までは屋外への散歩も積極的に行っている。ここ2年は外出頻度が少なかったといえるので、今後は利用者さんの思いにそって外出の機会も増やしていきたい	外出によく出かけているお店側も慣れられ、対応も良く好評。普段は施設周りを歩いたり、近くの神社は散歩コースになっている。日課で裏の土手をウォーキングする方もある。裏の畑には玉ねぎやジャガイモを植え成長を眺めて、収穫も楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を確実に管理できる方がほとんどおられず、基本皆さん所持金はもたれていない。またお金に執着ある方もいらっしゃらず、現在は外出時には職員が代行し支払いしている状況である		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用されている方もいる。使用方法がわからない方も多く、かかってきた際はつなげてあげる支援をしている。またその他の方については必要時には苑の固定電話で話していただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	左記については行っているといえる。特に季節感を感じていただけるようにリビングテーブルに生花を飾ることは日常的にしている	広々とした平地の中にあり、田園風景や畑がひろがり自然の変化を常時感じることができる。近くの民家も離れており、前は比較的交通量がある道路だが騒音が気になるようなこともない。ダイルームには食卓の他に椅子用の炬燵を置く十分なスペースがあり、中庭で行き来もできこの大変明るい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテーブル席、テレビがあるソファ席、和室と3空間が続いており、自由に過ごしていただけるようになっている。遠慮されている方には職員から声をかけ居場所を確保してあげる場合もある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外はすべて持ち込みであり、なじみのものを持参していただくことを入所時話している。それぞれ個性がみられる部屋であると思う	クローゼットがあり大きい荷物も収納可能。小テーブルにリクライニングの椅子、以前使用してタンスや衣装ケース、テレビなどを置きくつろげるようにしているが、殆どの方はダイルームで過ごす時間が長い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、自室の場所がわかりやすいように張り紙したり、随所に照明や時計を配置し自立に向けた配慮はしている。また建物内部はすべてバリアフリーである		